

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	木曽ペインティングス
事業主体 (連絡先)	木祖村 (産業振興課 0264-36-2001)
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	3,123,948円 (うち支援金: 1,999,000円)

事業内容

村内の空き家を活用し各地で活躍するアーティストや美術学生を招致し、滞在制作、展覧会、ワークショップ、住民協働でのイベント等を行い、住民との交流や眠っている地域資源の発掘と発信、子ども達への美術教育の充実、観光誘客を促進した。

- ・地元郷土史家の澤頭修自氏による木祖村の昔話講演会
- ・角谷沙奈美氏によるパリのアーティストインレジデンス講演会
- ・アーティストによる村民向けのワークショップの開催
- ・藤屋アーティストインレジデンスの整備
- ・地元酒造会社との酒瓶ラベルコラボ (参加アーティストのデザインを投票によりラベルを決めて限定販売した)

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①アーティストがそれぞれの空き家を活用し展覧会を開催したことで、村内外 (主に県内) から445名の参加があった (芳名帳調べ)。コロナ禍ではあったが多くの方々の参加により村内が活気づいた。
- ②地元子ども達を中心にアートに触れる機会が増えたことで学校では行えない美術教育を補うことができた。
- ③①同様に展覧会や講演会などに多くの方々に参加いただき、木祖村への観光誘客につながった

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後も滞在するアーティストと住民、観光客との交流による関係人口の増加を目指すと共に、課題となっている空き家を広く活用することで移住定住促進につなげたい。

また木祖村で行われている全国日曜画家中部日本展を広く発信するため、地域の木工文化 (画材関係等) との連携も深めていき、商工業の経済発展にもつなげたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【藤屋アーティストインレジデンス】

【目標・ねらい】

- ①空き家の活用による地域活性化
- ②アーティストと住民の交流による美術教育の充実
- ③展覧会などによる観光誘客

※自己評価【B】

【理由】

当初計画していた内容から規模を縮小せざるを得なくなったが、コロナ対策を施しアーティストと住民等との交流が図られたことで地域が活気づいた。

活動写真その他

角谷沙奈美氏の講演



澤頭修自氏の講演



展示会の様子



展示会の様子



ワークショップの様子

透明キャンバスに絵を描こう→



テントの中の絵の世界と外の世界へ
弓矢で絵具飛ばし↓

